



色の軌跡VI

「ちよちよちよちよつと！
この格好はずかしすぎる
んですけど！」

「あーもう！
はじっくり見てないで
早くしてください」





んっ

あっ♡

あん♡

はあ

あっ♡

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ



あああ
あああ
あああ

グッ
グッ
ニッ
ニッ

ムッ
ムッ
ムッ



(すごい...
お腹まで
垂れてきちゃった)

はあ

はあ

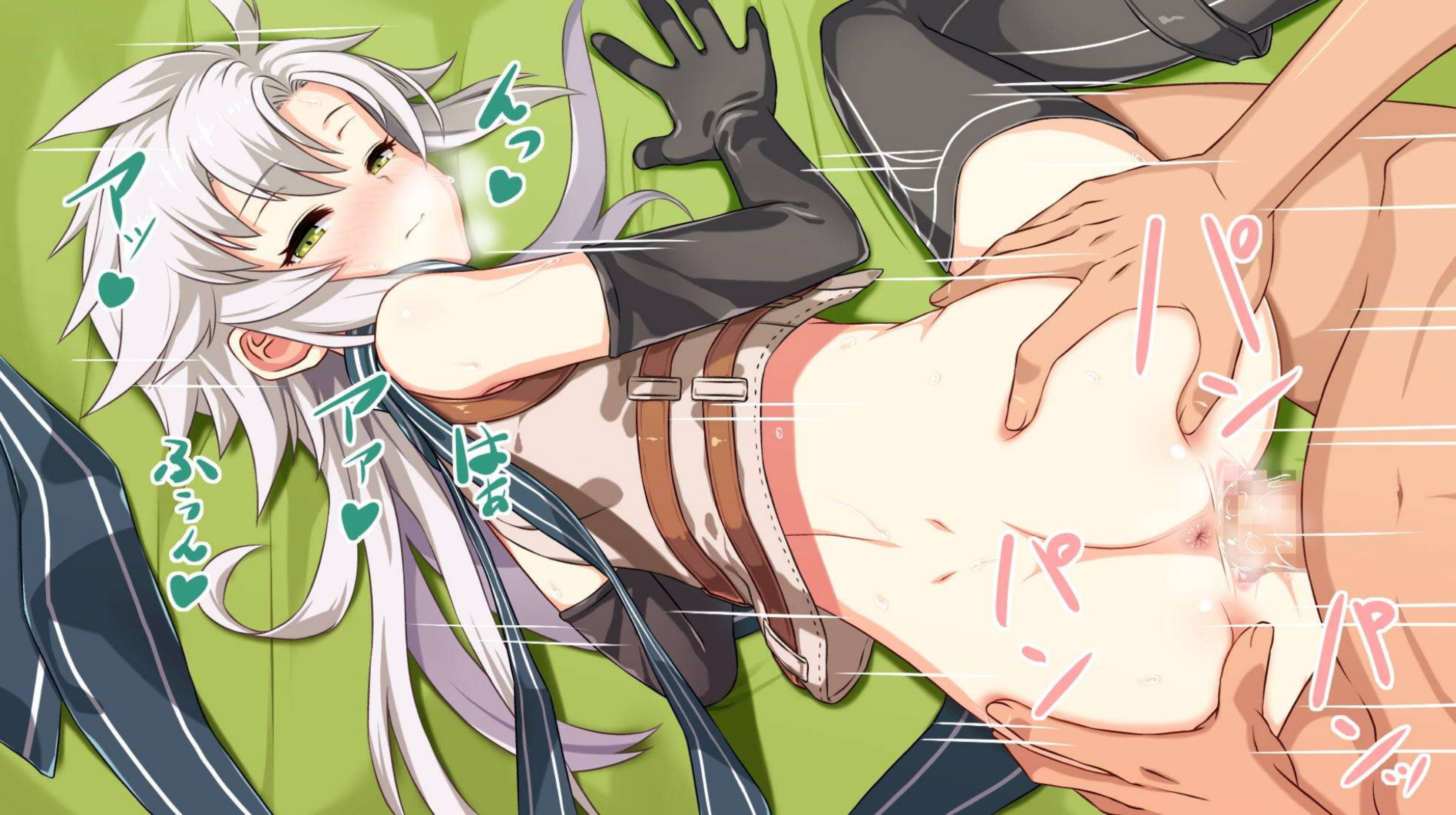
ポ

トロオ

「どうかかな？
結構成長したと
思うんだけど」

「ん、すっかりやる気だね
ふふっ、嬉しい」





んっ♡

アッ♡

アッ♡

ふっ♡

はな

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡





はー

はー

「はあ……はあ……
すごかった
ごめん
しばらく動けないかも」

ト



「ねえ早く……して？」

「だって久しぶりなんだもの
今日ぐらい
……いいでしよう？」



「ええっ！
出ると」「広げて見せてるって……」

「仕方ないわね
ど、どう
これでいいかしら？」

オコ

オコ



「以前は不埒だと思
っていたことも
今は貴方になら良いと思
う自分がいます」



んんん
ふっ

んんん

んんん

あぁ

はっ

あう

ズ

アッ

アッ

アッ



ハッ

ん♡

は♡
あ♡

あ♡

あ♡
あ♡

クッ

クッ

クッ

クッ

「胸の奥が暖かくなる
…不思議な感覚です」

ふっふっ

「貴方に教えてもらった
この気持ち
大事にしたいです」

トロキ

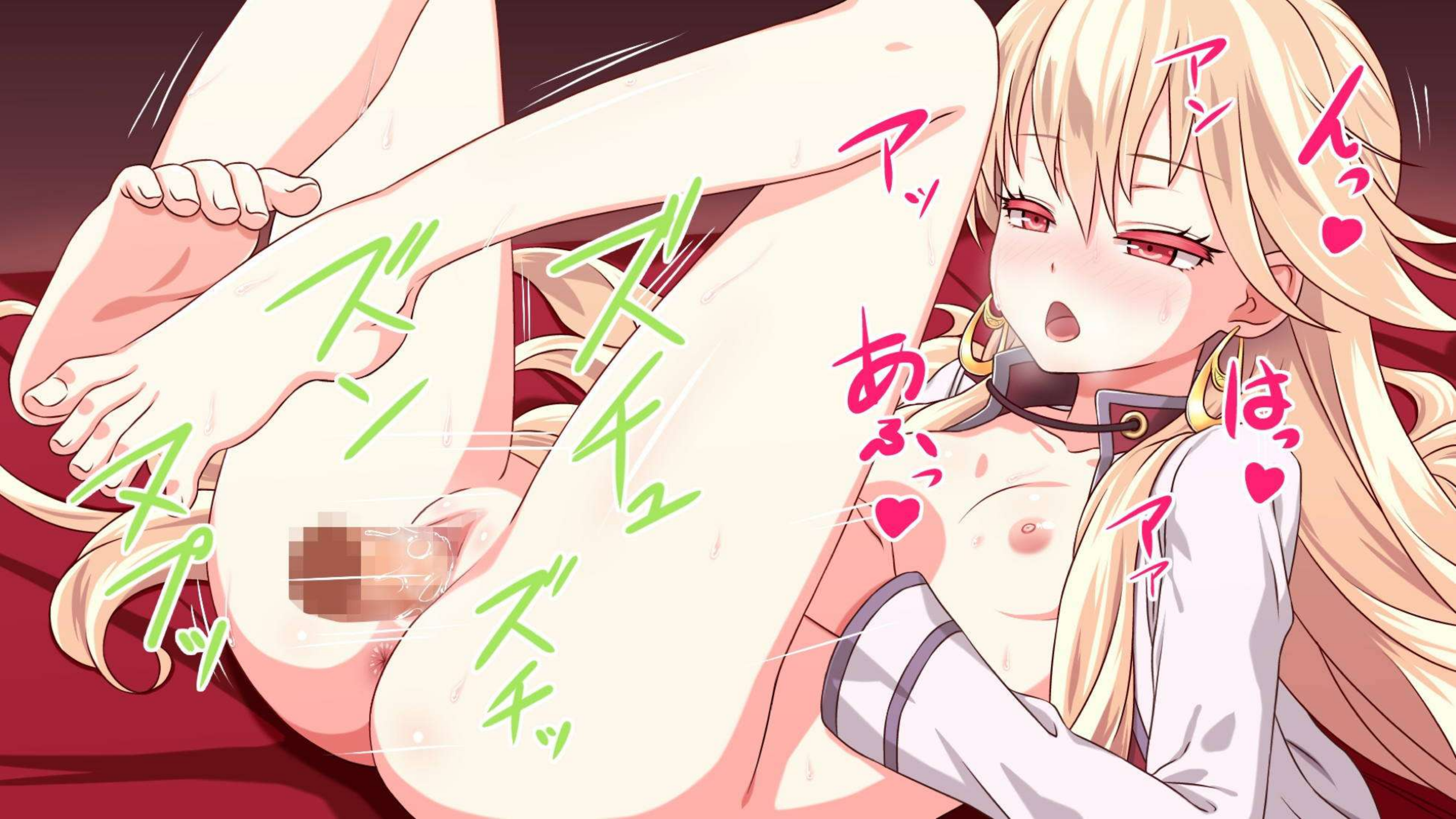
トロ



「なんじや
ヌシはこちらの姿の方が
好みなのか？」

「ま、よかる
とやかかく言うまい
このまま相手してやろう」





ドン

ズン

アッ

ズン

あふっ

はっ

アッ

アッ

アッ

はっ



「妾をここまで乱れさせるとは…
又シめ、こちらの方もなかなかの
手練れのようにじゃの」

エロニ

301

ふーっ

「今日はこちらの恰好が
よいのですか？」

「これもコスチュームプレイに
入るのかしら」





あゝん♡
はっ♡

あゝん♡
はっ♡

はっ♡

あゝん♡

あゝん♡



ああああ
ああああ

あ
あ

あ
あ

あ
あ



「あんツ♡
そんなに広げて見られたら
恥ずかしいですわ」

L

お!
♡

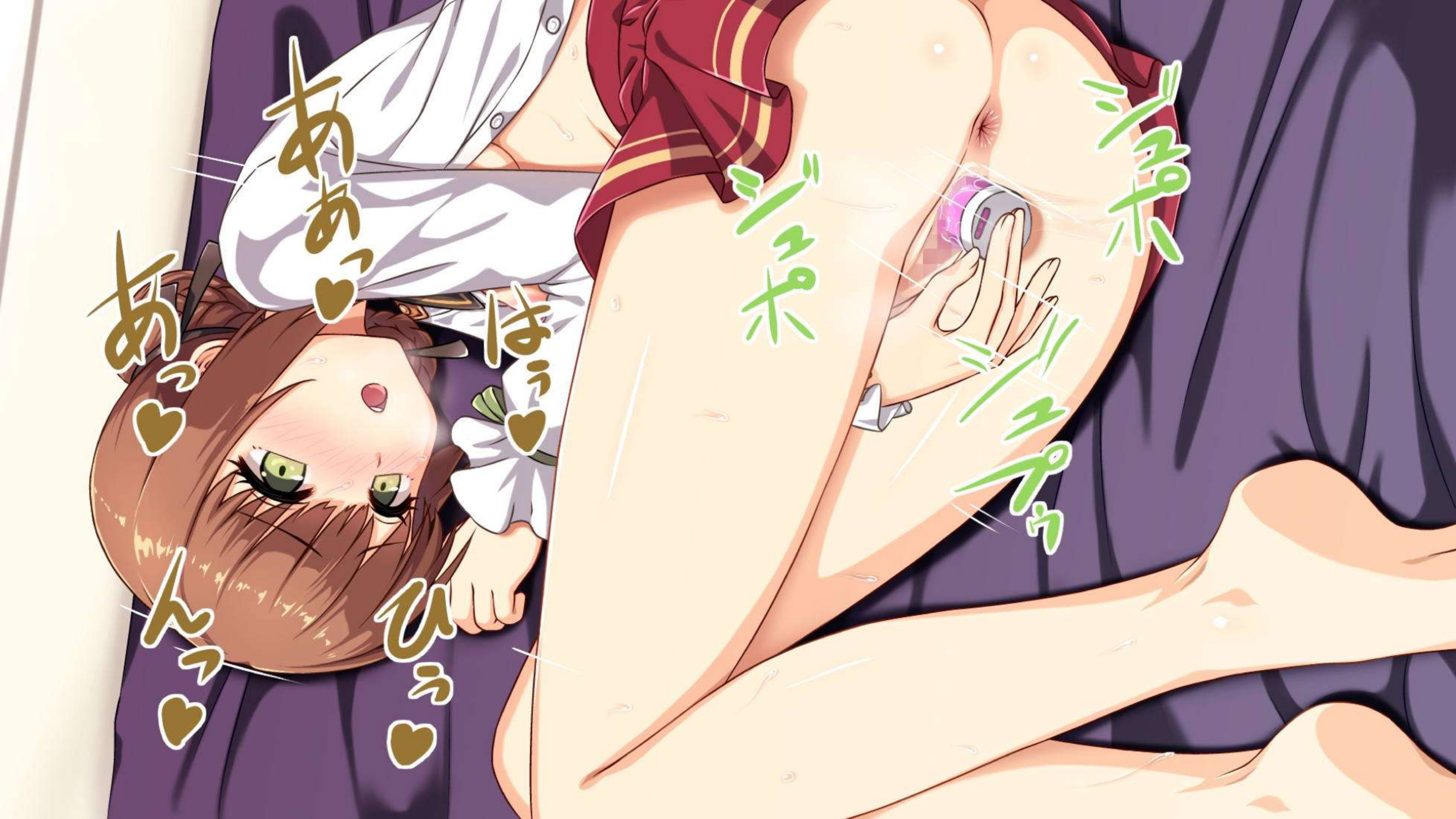
♡

「ぐむむ…
思わず交換屋で
手に入れてしまいましたわ」

「だいたい
彼がいつもいつも
思わせぶりなことを
言ってくるから
わたくしはこんなことに…」

「しかしこんなものを使うのは…
いえ、捨ててしまうのも
勿体ないですし
一度だけ…一度だけですわ」





あああ♡

あ♡

は♡

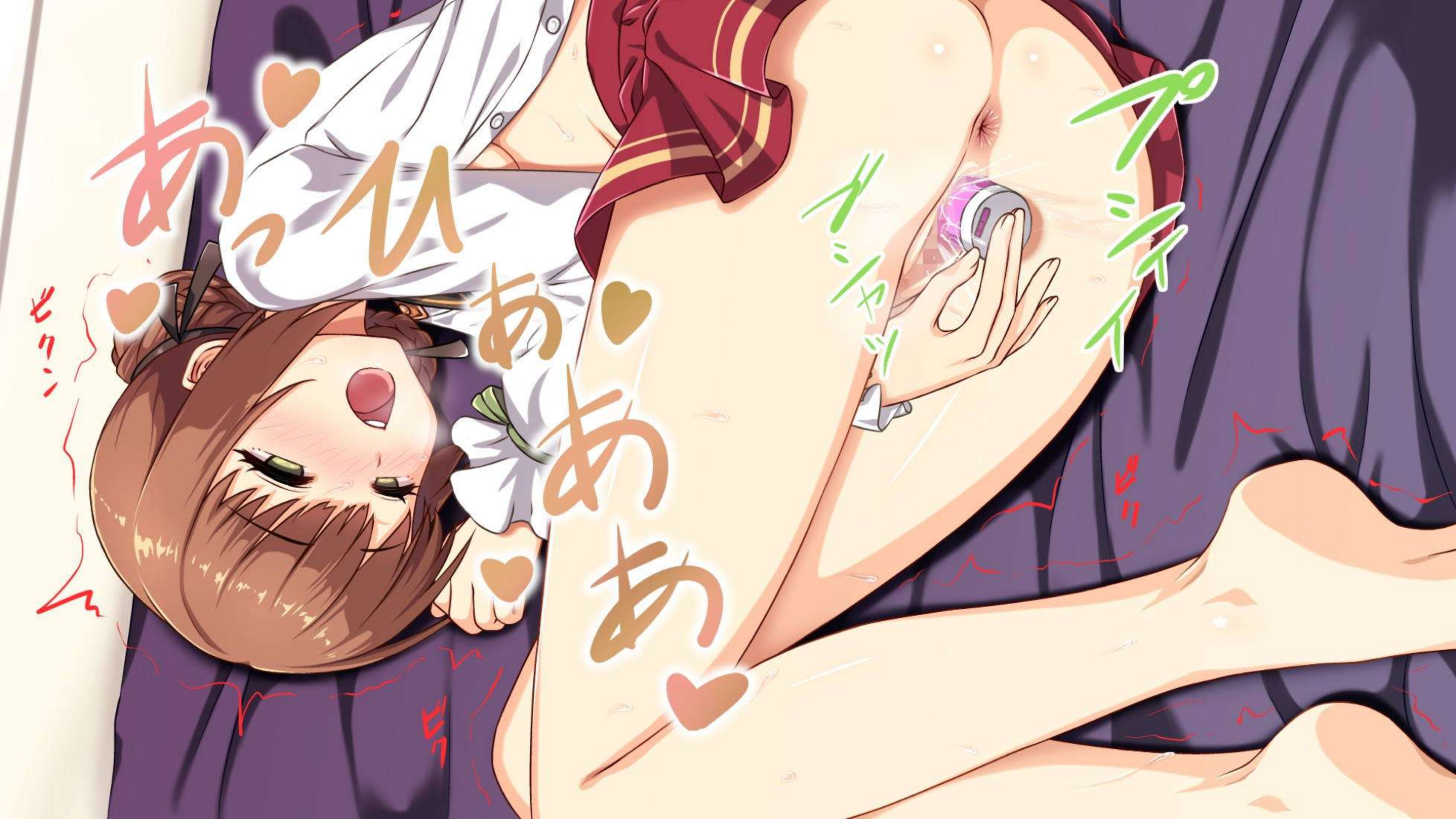
ん♡

ひ♡

ピリッ

ピリッ

ズン



「うう…
どうしましょう
すごく気持ちよかったですわ」

「こんな情けない姿…
マスターに顔向け
できませんわ」



「もうっ
そんなにながっつかないで」

「良い子にしてたら
すぐ気持ちよくしてあげる」



アム

あふ

ん

アム

アム

アム



ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ

ハ
ハ

ハ
ハ

ハ
ハ



「ハアハア……
あなたなかなかやるじゃない」

「また相手してあげても
いいわよ♡」

ドロオ



「あぁっ！
おたくしつたら
なんてはしたない格好を」

→
↑
↑
↑





「ああっ??:
そんな風に見られたら
恥ずかしいです」

クワッ
アッ

ゴッ
ゴッ

「このういう風になれること
ずっと夢見ていました」

「私を見様のものに
してください」





アッ!
ハッ
あっ♡

あっ♡

あ♡
ハッ
あ♡

いっ♡
いっ♡
いっ♡
いっ♡
いっ♡
いっ♡
いっ♡
いっ♡
いっ♡
いっ♡





「妹ではなく
一人の女として
そばにいられること...
とても嬉しく思います」

ドロドロ
ドロドロ

















































































「こんな格好で
おしっこさせるなんて
ほんとに、ほんとに……」

「ベッド汚れても
知りませんから」





「んっ
溜まってたから
いっぱい出るかも」

ショオオオオ



(.:おしつこの穴まで
全部見られちゃってる)

「またですか？
仕方のない人ですね」

シヨオオオオオ

「こんなものを見て
何が楽しいのか
理解しかねます」





「こんなものが見たいとは
おかしな奴じゃな」

「ほれ
これで満足か？」

ニョオオオオ



「さすがです
いい趣味してますね♡」

イニャアアア



「あ、貴方には借りもありませんし一度だけですわよ！」

ショボボ



「おしっこ好きな男って
案外多いのよねえ」

ニャオオオ



ヨオオオオ

「こんなに足を開いて
おしっこするとこころまで
見られてしまうなんて……」



「うん……
恥ずかしい」

うんうん

うん



























んっ

あっ♡

あん♡

はあ

あっ♡

ズッ
ズッ

ズッ









はあ

まあ

ぴん

TOTO















んっ♡

アッ♡

アッ♡

ふっ♡

はな

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡





あ

は

あ

あ

あ

ぐわん

ぐわん

ぐわん







はー

はー

「はあ……はあ……
すごかった
ごめん
しばらく動けないかも」

ト
ロ
ッ

















「お尻
閉まらなくなっちゃった……」

チ○

チ○













んんん♡

んんん♡

んんん♡

あぁ♡

はっ

あう♡

アッ

アッ

アッ

アッ





ん

はあ

ああ

あ

あ

あ







はあ

はあ

トク

トク















「妾をここまで乱れさせるとは…
又シめ、こちらの方もなかなかの
手練れのようにじゃの」

エロソフ

ふーっ

ふーっ





















あゝ

はっ

んっ

あゝ

はっ

んっ

あゝ







ああああ

あ
あ

あ
あ

あ
あ





「こんなに激しくされたら
お尻閉じなくなっちゃいます♡」

↑
Koy



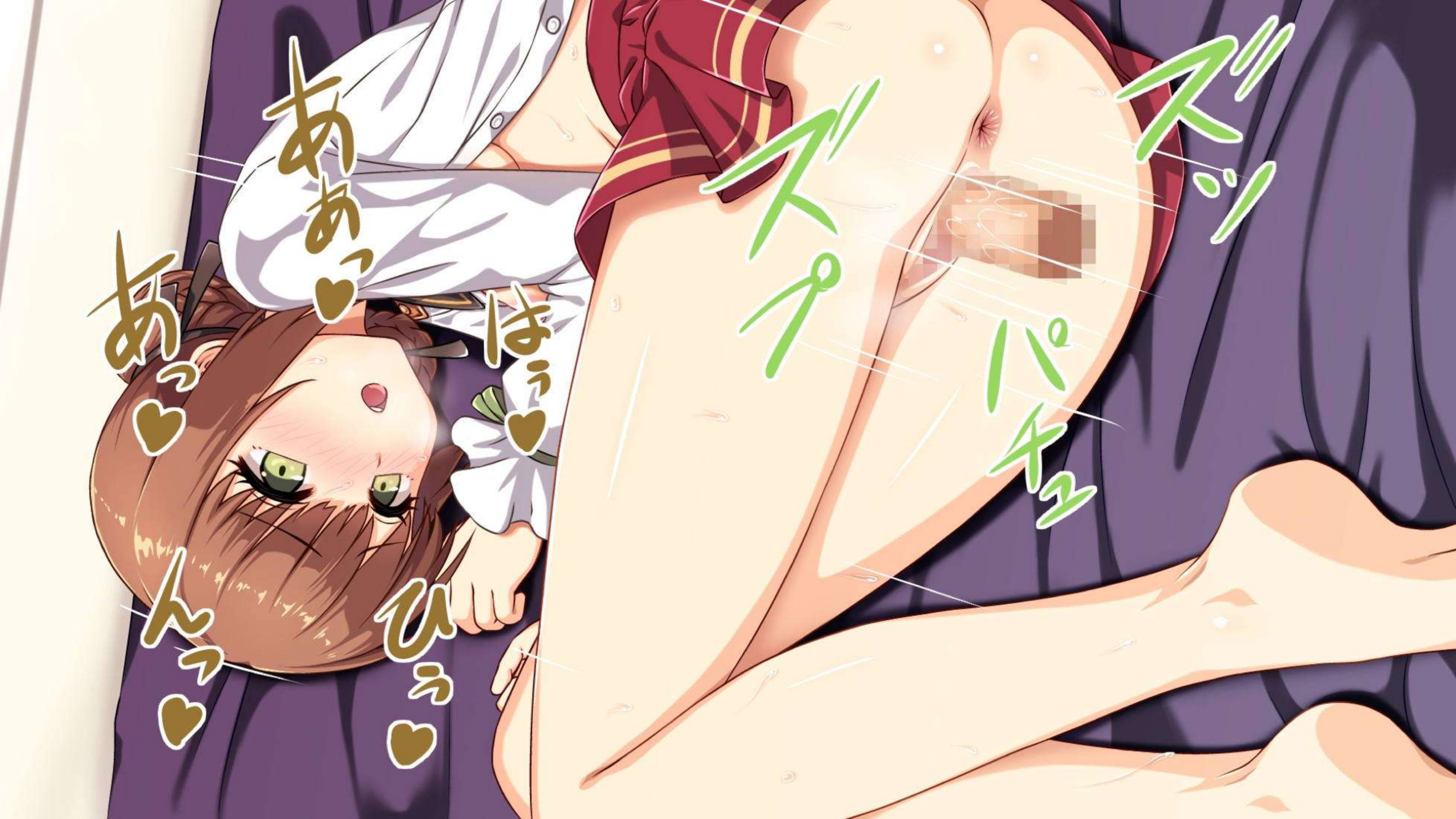












あぁ♡
あぁ♡

はっ♡
はっ♡

あ♡
あ♡

ん♡
ん♡

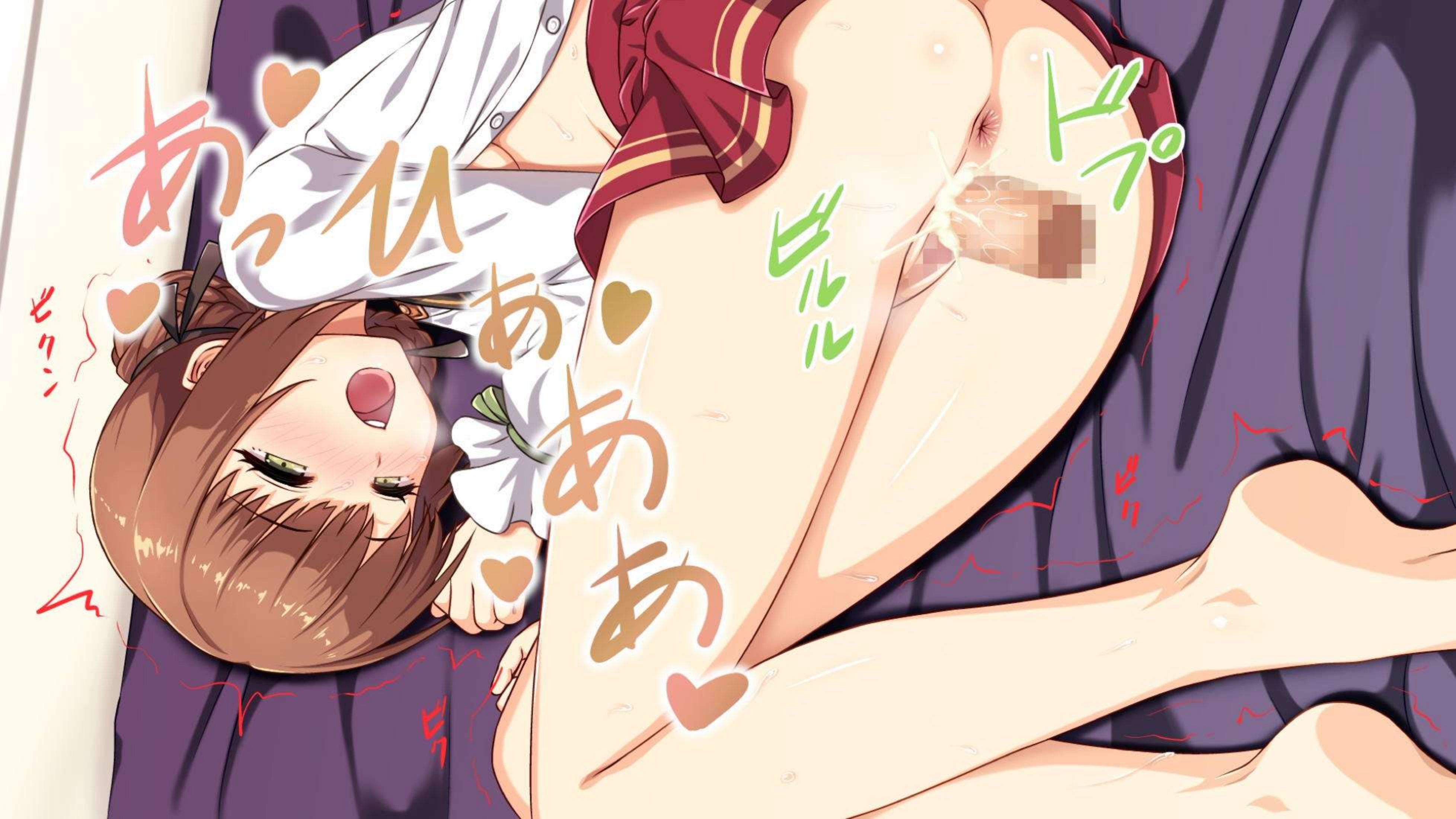
ひ♡
ひ♡

ズグ
ズグ

パ
チ
コ

ズ
グ





あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん





「うう…
どうしましょう
すごく気持ちよかったですわ」

「こんな情けない姿…
マスターに顔向け
できませんわ」





あぁ♡

あ♡

は♡

ん♡

ひ♡

ズッ

パチョ

ズッ





ドロロ

「うう…
どうしましょう
すごく気持ちよかったですわ」

「こんな情けない姿…
マスターに顔向け
できませんわ」





















「ハアハア……
あなたなかなかやるじゃない」

「また相手してあげても
いいわよ♡」

ドロオ

















「お尻がこんなに
気持ちいいなんて……」

ゴッ









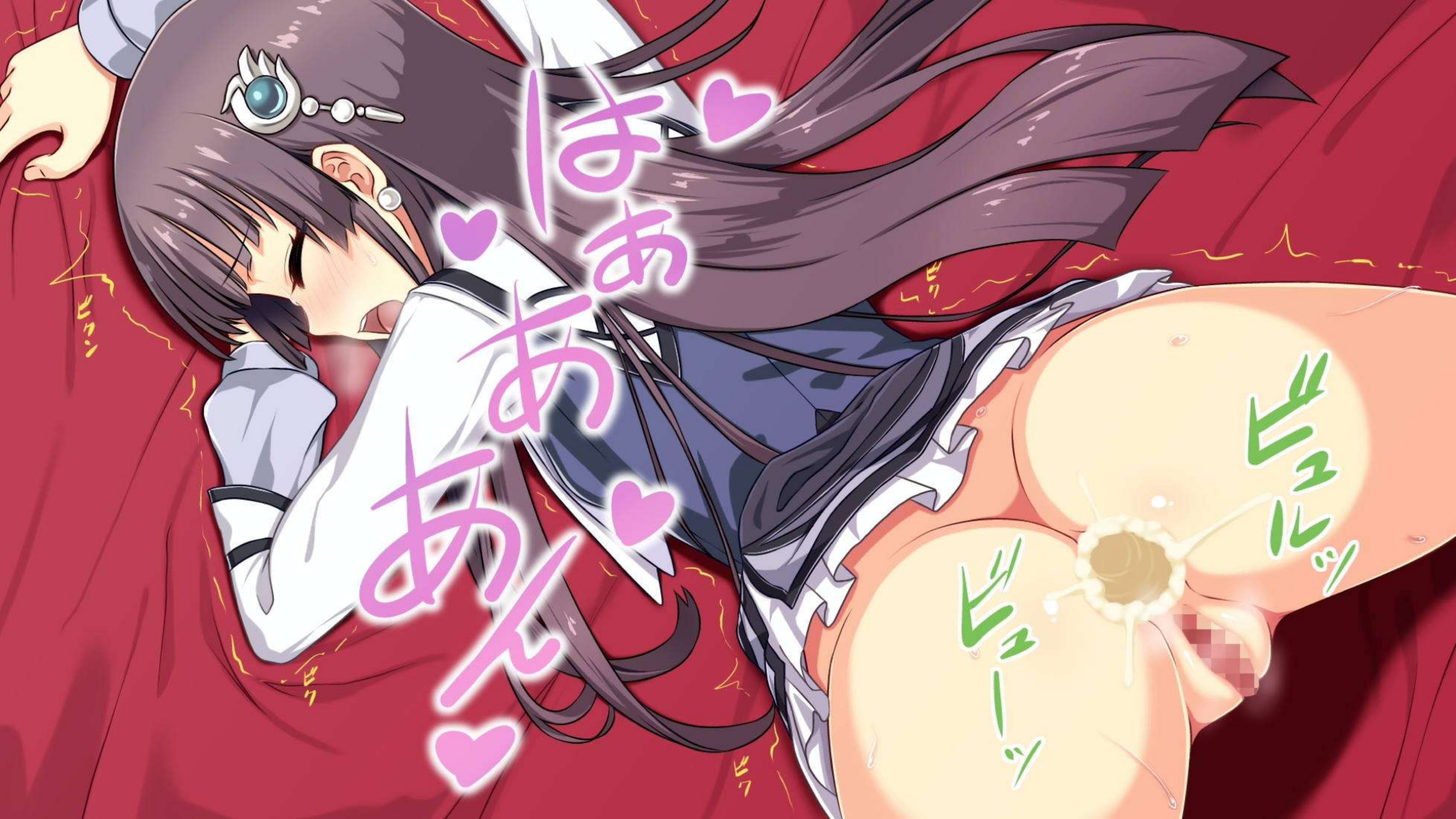












はあ
ああ
ああ

ムムム
ムム





「妹ではなく
一人の女として
そばにいられること…
とても嬉しく思います」









んっ

あっ♡

あん♡

はあ

あっ♡

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ



んっ♡

アッ♡

アッ♡

ふっ♡

はな

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡



あ

は

あ

あ

あ

ビュッ

ビュッ

ー



ビュッ

ビュッ

ビュッ

ー





んんん ♡

んんん ♡

んんん ♡

あぁ ♡

はっ

あう ♡

アッ

アッ

アッ

アッ



ん

はあ

ああ

ああ

クソッ

アッ

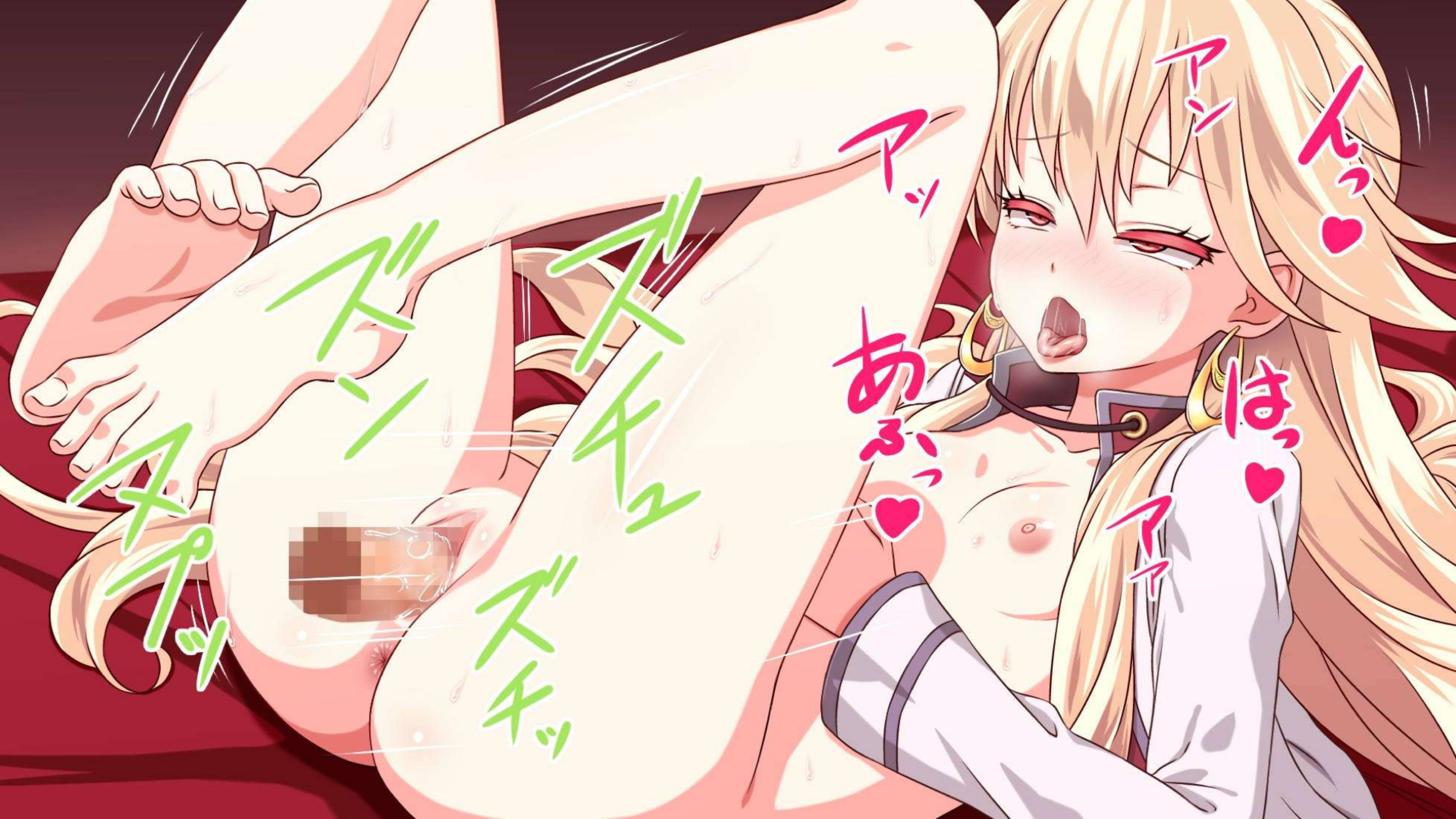


クソッ

クソッ

クソッ

クソッ



ドン

グッ

アッ

グッ

あふっ

はっ

アッ

んっ

アッ

アッ



あゝ♡

あゝ♡

はっ

ん♡

はっ♡

ん♡





ああああ

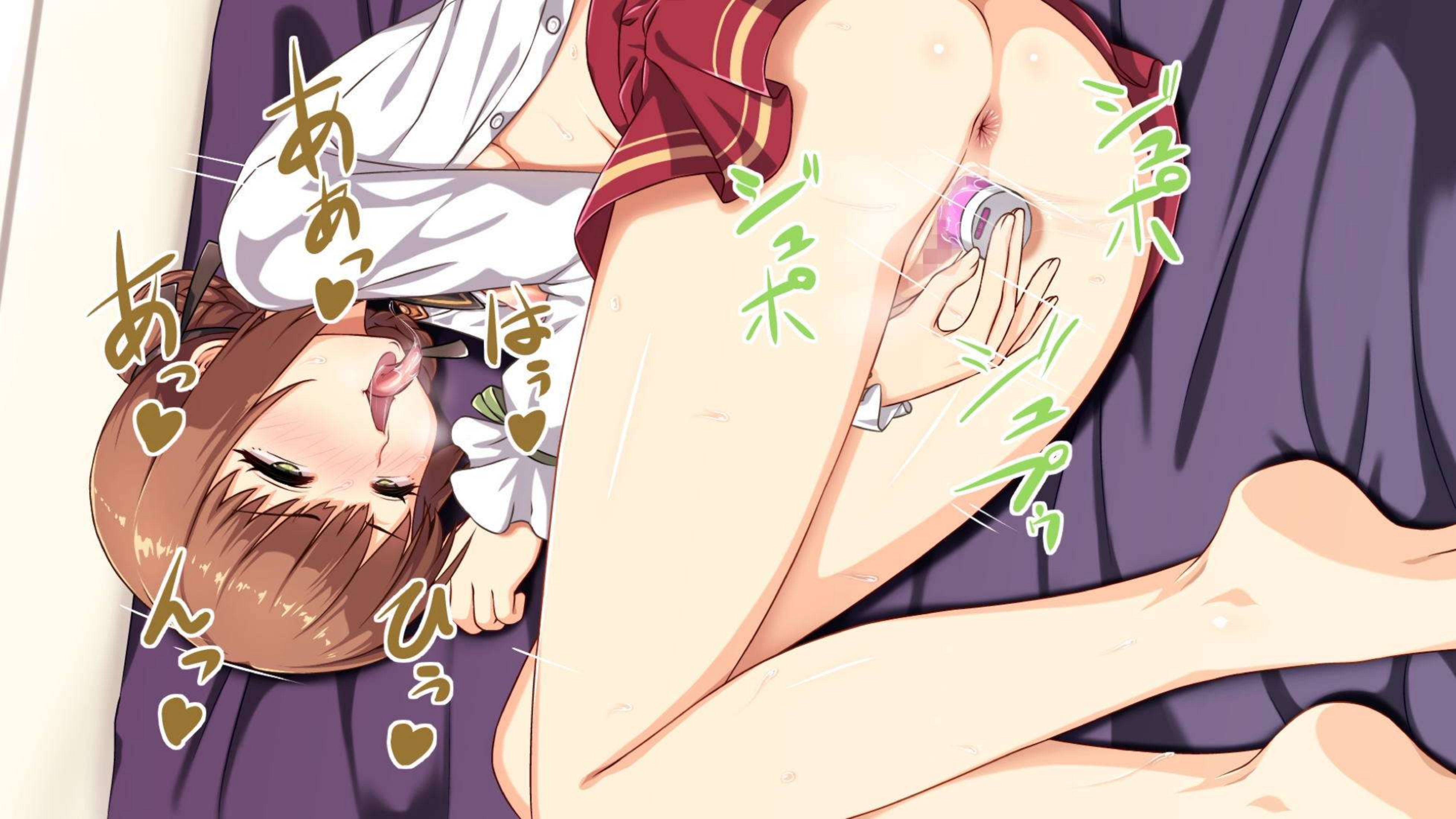
あ

あ

あ

あ

あ



あぁ♡

あ♡

は♡

ん♡

ひ♡

あ♡

あ♡

あ♡





ト
ク
ク
ク

ク
ク
ク
ク

ク

ク

ク





アッ!
♡

あっ♡
♡

あ♡♡
♡

!!
!!
!!
!!
!!
!!
!!
!!
!!
!!



















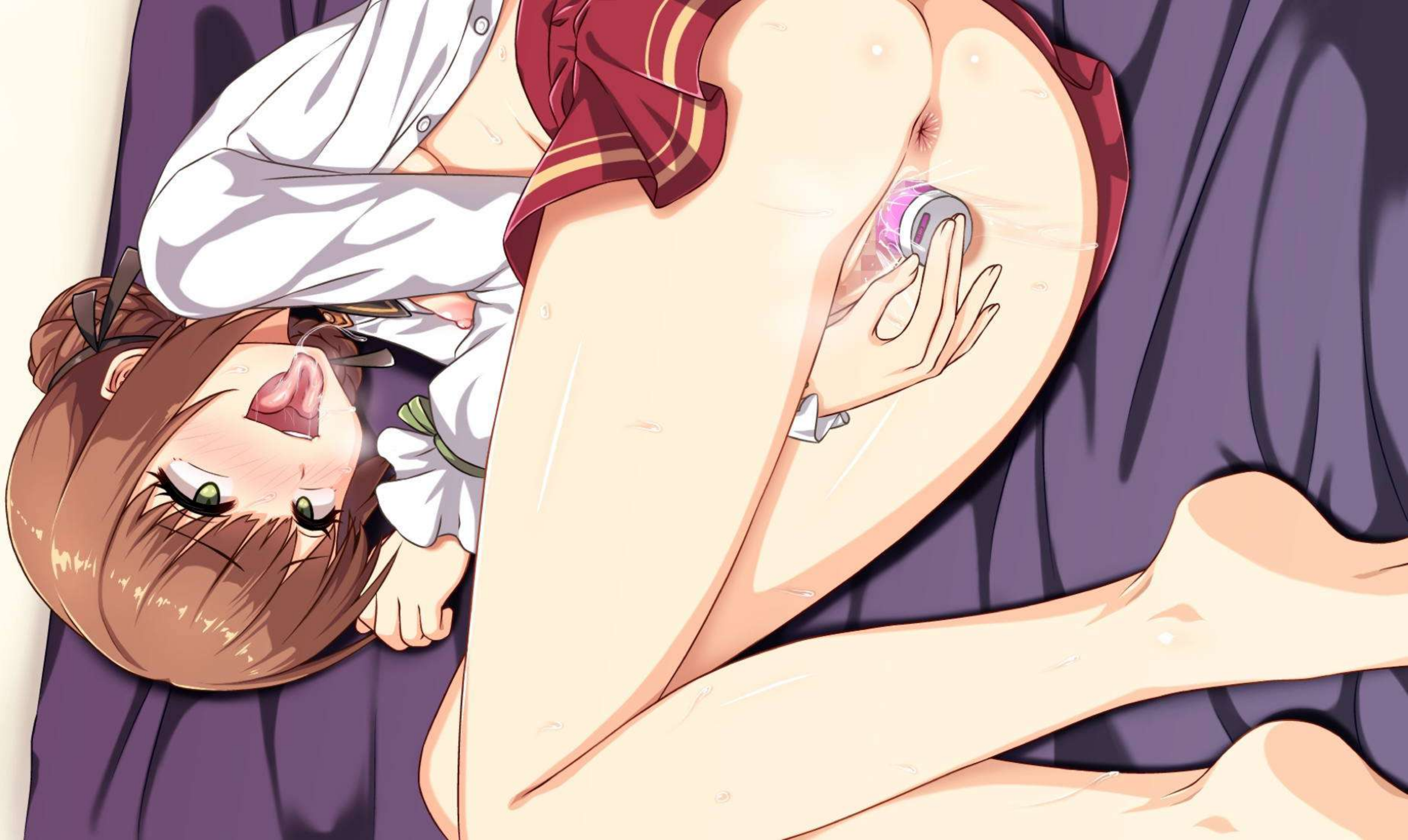


























あ
あ
あ
あ
あ

グ
グ
グ

ムム
ムム
ムム

ムム





あ

は

あ

あ

あ



あはあ

あはあ

あ





ジュジュ

カワカワ

カワカワ







アハハ

ん♡

は♡
あ♡

あ♡

あ♡
あ♡

アハハ

アハハ

アハハ

アハハ







ああああ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ





















この格好
お腹押されて……
もう我慢できない！



「あ、あああ
出ちやつた……」

4

4

4



この格好
お腹押されて……
もう我慢できない！



「あ、あああ
出ちやつた……」



「…はあ
相変わらず
これが好きなんだね」

「あっ!!
もう出そう」



「んんっ!」
「太いの……出る……」

ニクッ

ニクッ

グ
グ



「…はあ
相変わらず
これが好きなんだね」

「あっ!!
もう出そう」

グ
グ
グ

グ
グ

グ
グ



「お尻……
気持ち悪い」



このかんじ
いっぱい出ちやいそうだわ



このかんじ
っぱい出ちやいそうだわ

ポッポッ

ポッ



「あああつ
見ないでえ……!!」

ヒッ

ヒッ



「やはり貴方は不埒な人です」

ふんふん

ふんふん

ふんふん



（うう…）
この人に頼まれると
なぜか断れません

「やはり貴方は不埒な人です」





「又シよ
これはかなりのの
上級者向けでは？」

「さすがの妾も
緊張しておるわ」



「よりによって
こんなときに
長いのが出るわ」

ム

ニキ

ムキ

ムキ
ムキ



「又シよ
これはかなりのの
上級者向けでは？」

「さすがの妾も
緊張しておるわ」



（くぅぅ…）
これほどの羞恥
初めてかもしれん



（こゝれは...
自分でもわかるくらい
臭いすね）

アハ〜

ふ.



「あつく!
太くて硬い...
お尻が裂けてしまいそう」

ミッ
ミッ
ミッ

ニッ
ニッ
ニッ



（こゝれは…
自分でもわかるくらい
臭いですね）

アウ〜

小.



「あつ、ふつ！
パンツから
溢れちゃいます」



「その、……すると」が
見たいだなんて
貴方変態ですの!!
下変態ですの!!」

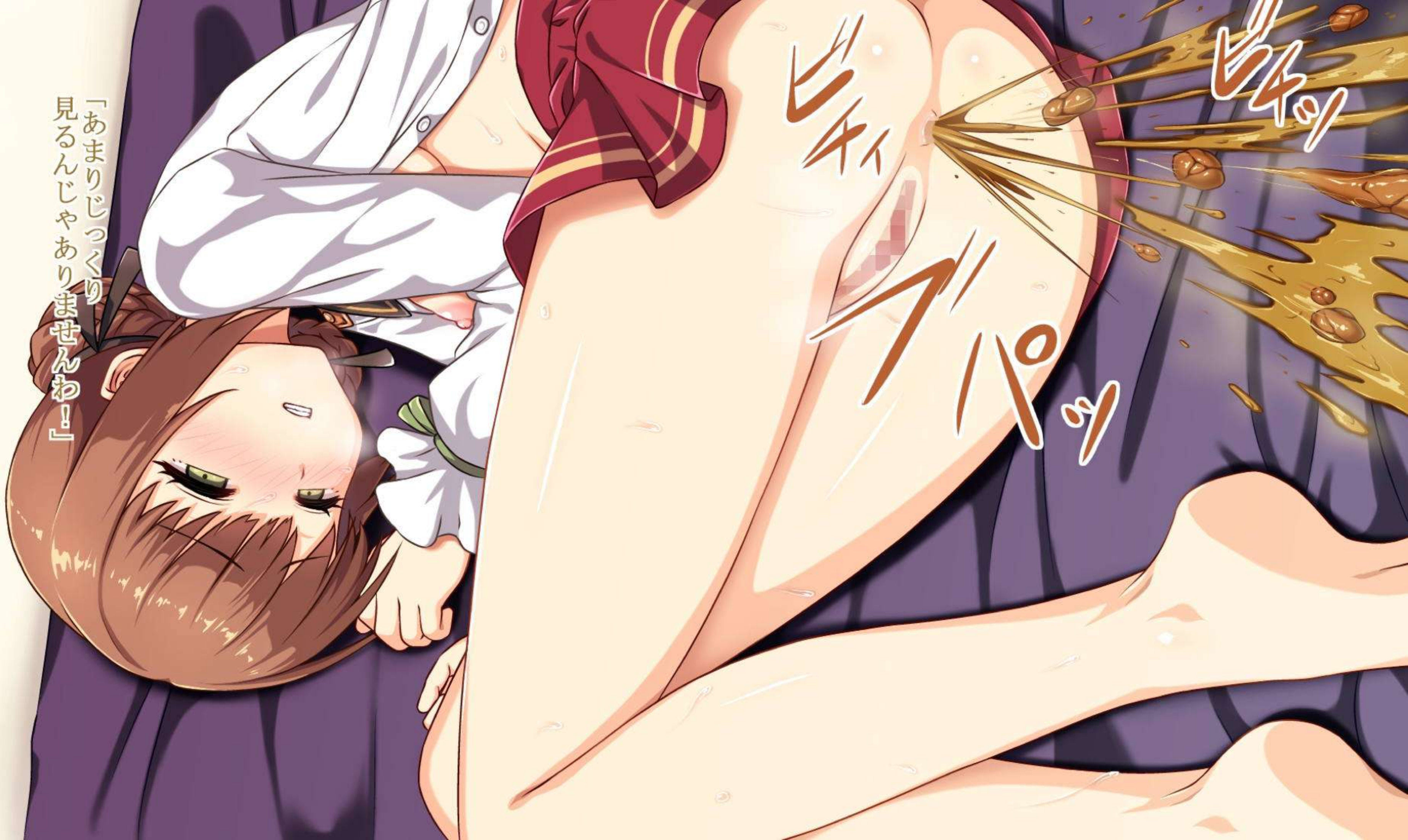
ブッ

グゥ〜

「あまりじつくり
見るんじゃありませんわ!」



「あまりじつくり
見るんじゃありませんわ!」





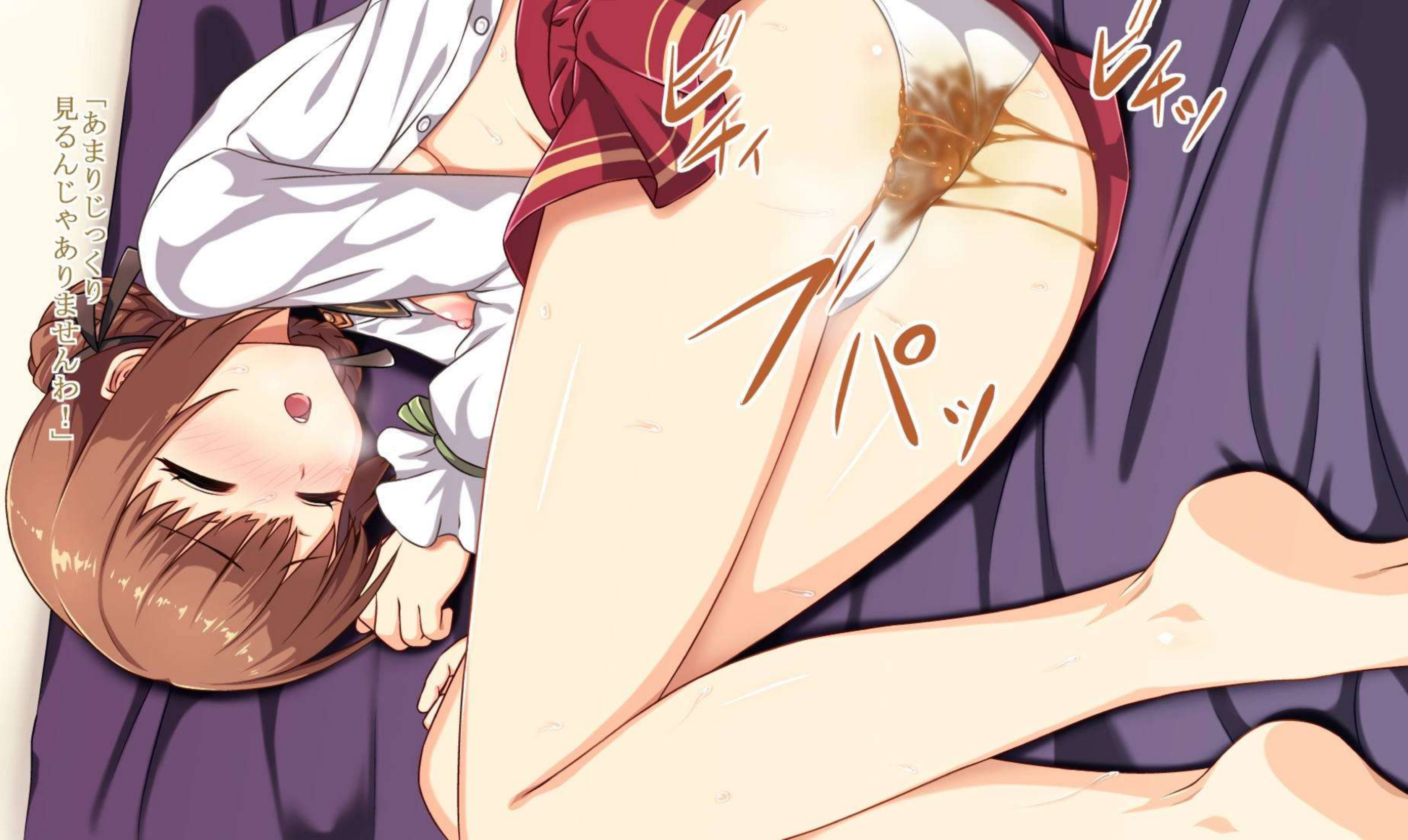
「その、……すると」が
見たいだなんて
貴方変態ですの!!
ド変態ですの!!」

ブッ

グゥ〜

ド

「あまりじつくり
見るんじゃありませんわ！」





「こんなもの見て
何がいいのかしら？
理解できないわ」





「こんなもの見て
何がいいのかしら？
理解できないわ」





「貴方の願いなら
すぐく恥ずかしいですけれど
おたくし……」

ズ
ズ
ズ



「ああっ!
こんなわたくしを見ても
嫌いにならないでください」

ゴゴ

ムム

ムム

ムム



「貴方の願いなら
すぐく恥ずかしいですけれど
おたくし……」

ア
ア
ア



「ああっ!
こんなわたくしを見ても
嫌いにならないでください」

ジュジュ

ジュジュ



「えっ嘘!!
嗅がないでください!」



（見られてます
私の一番恥ずかしいところ
全部見られてます）



「えっ嘘!!
嗅がないでください!」

（見られてます
私が一番恥ずかしいところ
全部見られてます）

































































































































































































































